

第90号
2017年 9月

風

発行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町3-19-3
「風」はホームページでもご覧いただけます
<http://gunma.kenren-coop.jp/>
Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

女性協第24回定期総会を開催しました 6月20日(火) 2016年度の活動のまとめと2017年度活動方針を確認



6月20日(火)、群馬県生涯学習センター(前橋市文京町)で女性協第24回定期総会を開催しました。議長にコープぐんまの佐藤順子さんが選ばれ、主催者代表として八田直樹県連会長理事、女性協松本勉枝会長が挨拶を行いました。続いて議長は5名の来賓(群馬県生活文化スポーツ部消費生活課補佐山崎隆之様、群馬県ぐんま男女共同参画センター所長戸塚洋子様、JAぐんま女性組

織協議会会長土屋玲子様、同事務局深澤有和紀様、日本生協連中央地連事務局渡邊大輔様)を紹介し、山崎様、戸塚様よりご挨拶をいただきました。

議事に入り藤原京子副会長が第1号議案「2016年度活動方針及び収支報告承認の件」の提案を行い、続いて第2号議案「2017年度活動方針及び活動費計画決定の件」を松本会長から提案し、質疑応答ののち賛成の拍手多数で全議案が承認されました。

恒例のアトラクションは、山中幸一さん、大久保伊津美さんのお二人によるピアノ・コントラバス・ドラム・ギターの演奏と歌を楽しみました。「とても音楽を楽しんでいらっしゃっていても私も楽しくなりました」「やさしい音色で異空間を楽しめました」などの感想が寄せられています。



県消費生活課補佐山崎様と県ぐんま男女共同参画センター所長戸塚様からご挨拶いただきました

第24回定期総会に参加させていただきました。生協間の垣根を越え様々な課題について共に知り、考え、行動していることを、活動報告を通じ改めて感じました。

女性であることは働くうえで不利に感じることもありますが、組織の垣根を簡単に超えるコミュニケーション能力の高さは女性の強みです。

アトラクションの演奏も素敵で、普段は忙しく生演奏を聴く機会を持ってない女性へ向けたい褒美のように思えました。ありがとうございました。

パルシステム群馬 東條陽子さん

お詫び:前号「風」89号の女性協議会定期総会の開催回数が間違っておりました。第28回定期総会と掲載しましたが、正しくは、第24回定期総会でした。



第二部恒例のアトラクションは、山中幸一さん、大久保伊津美さんの演奏と歌。親しみやすい曲に素敵な時間を過ごすことができました。

女性協役員の皆様、各組合で大変ご多忙でいらっしゃる中、私たちが地域でいきいきと活動できるよう先頭に立って指導され、このように盛大な総会を成功させられたことに感動しました。

「男女共同参画」、「広く社会に貢献する」ということに私たち女性が、同等に活躍していける社会実現に向けしっかり学習し、知識を身につけ活動しなければと強く感じました。又、アトラクションの演奏や歌も大変すばらしく大いに楽しませていただきました。

北毛保健生協 唐澤 崇子さん

女性協主催 会員生協活動交流会を開催しました 「地域のなかでいま生協ができること」 5月19日(金)

5月19日(金)群馬県生涯学習センター(前橋市)において、県連女性協主催で会員生協活動交流会を開催し、7会員生協と事務局から40名が参加しました。



交流会では最初に基調講演として、群馬県ぐんま男女共同参画センター戸塚洋子所長から群馬県の男女共同参画の取り組みについて報告していただきました。

続いて、生活クラブ生協から生協運営と男女共同参画について、利根保健生協からワークライフ・バランスの取り組みについて、北毛保健生協から病児・病後児保育の取り組みについて、活動報告・事例発表がありました。

基調講演「男女共同参画における群馬県およびぐんま男女共同参画センターの取り組みについて」



群馬県ぐんま男女共同参画センター 戸塚洋子 所長

戸塚所長は、男女共同参画を身近な問題としてとらえてほしいと訴え、労働、子育て、建設、農業、人権・男女共同参画の各分野を担当する県庁各課、県ぐんま男女共同参画センターの取り組みを紹介していきました。災害時の対応については、避難者のストレス軽減のためにも男性中心となっている避難所運営に女性が加わることの重要性を強調しました。また、群馬県内の女性参画状況を全国水準と比較したデータを示しながら、「女性の参画が3割以上になると組織や社会は変わってくる」と呼びかけました。



基調講演・事例発表を聞いたあとは、6つのグループに分かれてグループ交流を行いました

会員生



生活クラブ生協 木村香織さん

主婦の共同購入会からスタートして、会社でなく「生協」を選

び生活クラブ生協をつくった。男なら間違いなく手を引いていたと言われる中でも女性だけで経営を続けた。赤字解消となったときに一番思ったのは「お金のための仕事でなく、世の中をよくしていきたい思いがあればこそ」だった。男女共同参画を生協から進めましょう！



利根保健生協 金子れい子さん

群馬県看護協会の取り組みに参加し、ワーク・ライフ・ balan

ス推進委員会を2012年に立ち上げた。職員が働きやすく、人材の確保・育成を進める病院をビジョンに、くるみんマークを取得し、プラチナくるみ取得に向けて男性の育休取得、時間外労働の削減などに取り組んでいる。プレ子ども参観、「かえるバッチの運用」など実施している。



北毛保健生協 鈴木由紀さん

病児・病後児を預かる施設は県内に9つしかない。女性が働こうと思っても採用面接で「お子

さんはいますか？」と質問される実態がある。子どもを迎えに行けないと「愛情があるのか」と学校から言われたという人もいます。仕事が休めて病児・病後児保育を必要としない社会がよいには違いないが、今は必要。県内各地にも広がってほしい。

群馬県生協連女性協議会主催 会員生協活動交流会に参加して

今の時代においては、私が仕事をしていた30年前と比較すると、かなり男女共同参画に対する人々の意識も変化しつつあり、行政等の対応も、進歩しています。

まだ親である私達世代の者の方が「男だからこうあらねば」「女らしい選択をすべき」という古い意識が残っているようです。今回の交流会に参加し、意識を改める必要性を感じました。

ワークライフ・バランスの重要性についても、各グループの交流の中で活発に話し合いが持たれました。働きやすい職場、働き続けられる職場環境が生活していく上でいかに必要不可欠な事が、皆問題意識を持っておりました。

今回発表のあった会員生協も男女共同参画をめざし取り組んでいる様子がよく理解できました。しかし現実はまだまだ男女共同参画社会とはほど遠いのではないのでしょうか。今後も会員生協には積極的な取り組みが必要だと思います。

普段男女共同参画という事を意識する機会が少ない中で生活しているので、考え直す必要性を学ぶ有意義な交流会でした。子どもに対しても男だから女だからという考えで固定化する事を自分自身反省もしました。

(コープぐんま 運営委員 女屋美由紀)

最初に群馬県における男女共同参画の基本的な考え方が学べました。次に事例発表の「病児・病後児保育について」働きながら子育てをする親にとって大切な場であると実感しました。生活クラブ生協の苦労話は女性の視点があったればこそその成果だと思います。利根保健生協のワークライフ・バランスのお話では職員の満足度が高くなる職場環境の改善が必要なことを学びました。

グループワークではとてもドキドキしてのぞみましたが、男女共同参画の視点や何が大切なのかを、とてもフラットに自由に発言交流が出来ました。生協だからこそ出来ること、生かせること、働く職場作り、情報発信の場、居場所を見つける社会など、多くの交流ができました。

一組合員として何が出来る・・・？ 孫育ち、婆育ちに役立ちました。最後に行政への提言が出来る場がある、ぐんま男女共同参画センターの役割があること、命をつないでいく大切な視点、学んだ事を共有出来る場があることがうれしいです。今日の私は虹色です！

(はるな生協 渡辺百合子さん)

女性協運営委員学習会を開催しました

8月9日(水)「男女共同参画社会について」

8月9日(水)に開かれた第2回運営委員会では、群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課男女共同参画係長の木村恵美子氏を講師に迎え、学習会を開催しました。

木村係長は、男女共同参画社会とは「男女が自らの意思によって社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受でき、かつ共に責任を負うべき社会」と男女共同参



木村男女共同参画係長



画法に書かれていることを紹介し、法や条例の考え方、施策の現状と課題について説明しました。

運営委員からは「市町村の取り組みが遅れていることを実感した」「男性目線で女性活躍の評価がされている面もある」「女性の意識も変えていくことが必要」などの意見が出されました。

会員生協活動紹介

はるな生協

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

福島県南相馬市被災地見学に行ってきました



6月24日今回第3弾となる福島県被災地見学を行いました。2013年、2014年に続き今回の取組みには24人の方が参加しました。南相馬市議会の渡部寛一議員の案内で南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町を見学しました。参加者の感想を紹介します。

(はるな生協 組合員活動部 佐藤紀代子さん)

「今回初めて被災地見学に参加させて頂き、まだこの震災は終わっていないと痛感した。壊れたままのかわら屋根や割れた窓ガラス、作物の育てられない畑など、特に帰還困難区域は2011年3月11日から時が止まっ

ているかのように思った。ショッキングなお話もあったが、実際に福島で暮らし今も毎日復興に向けて努力されている方のお話を聞くことができたのは、貴重な体験だったと思う。私も今回の見学で見たこと、感じたことを忘れず震災を風化させない努力をしようと強く思った。また、原発や放射能汚染の恐ろしさ、身を持って感じ、原発に頼らないエネルギーづくりを早急に進めるべきだと考えた。」(生協職員)



県連女性協議会主催組合員学習交流会

11月14日(火) 10:30~12:00

群馬県生涯学習センター第1研修室

入場無料：事前にお申込みください



前橋市在住の歌手 マッサージ師

澤田 馨 さんがお話しします



澤田さんは、病気のため中学時代に失明し、マッサージ師をしながら、バンドを結成し、精力的に音楽活動、苦悩を乗り越え充実した日々を過ごしています。社交ダンスでもアマチュアとして最高レベルの資格を取得しました。